

成形加工を例としてトヨタ生産方式の実用化

～基本の理解と不良対策への応用～

概 要

プラスチック成形加工プロセスへのトヨタ生産方式の適用を目指します。トヨタ生産方式の歴史と概要をご説明の上、成形加工に適用する際に乗り越えるべきハードルを解説します。実務適用としては、成形不良の本質原因究明と源流対策を狙いとします。対応手法ごとに具体事例で説明しますので、容易に実務展開可能です。最後のまとめでは、原価改善／生産性向上への適用に関しても概要を説明します。長期連載予定の本テーマの全体概要がわかります。

トヨタ自動車出身でその後サムスン等を経験したことから、多角的な視点でのわかりやすい内容です。

講義目次

- ① トヨタ生産方式が注目され続ける理由
トヨタの売上・利益の推移／最近の動き
- ② トヨタ生産方式とは
歴史／構成する2本柱／理想と実力のバランス、リーン生産方式との差異
- ③ 成形加工に展開する際のハードルと対応
ロット生産の成形加工と一個流しのトヨタ生産方式
- ④ 導入編 成形加工への適用を解説
 - ・ 7つのムダとカイゼン
 - ・ 4S、標準化、目で見える管理
 - ・ 不良対策 現地現物 見える化
- ⑤ 実務編 真実を見極めた不良撲滅活動
課題の共有、目線合わせ（言葉の確認）、赤箱とは
情報の集約／時間軸分析／層別 ≪それぞれ事例紹介≫
- ⑥ まとめ
5回のなぜ、源流対策
業務プロセス要素
原価改善／生産性向上への提要の概要
本当にトヨタ生産方式は導入すべきか？